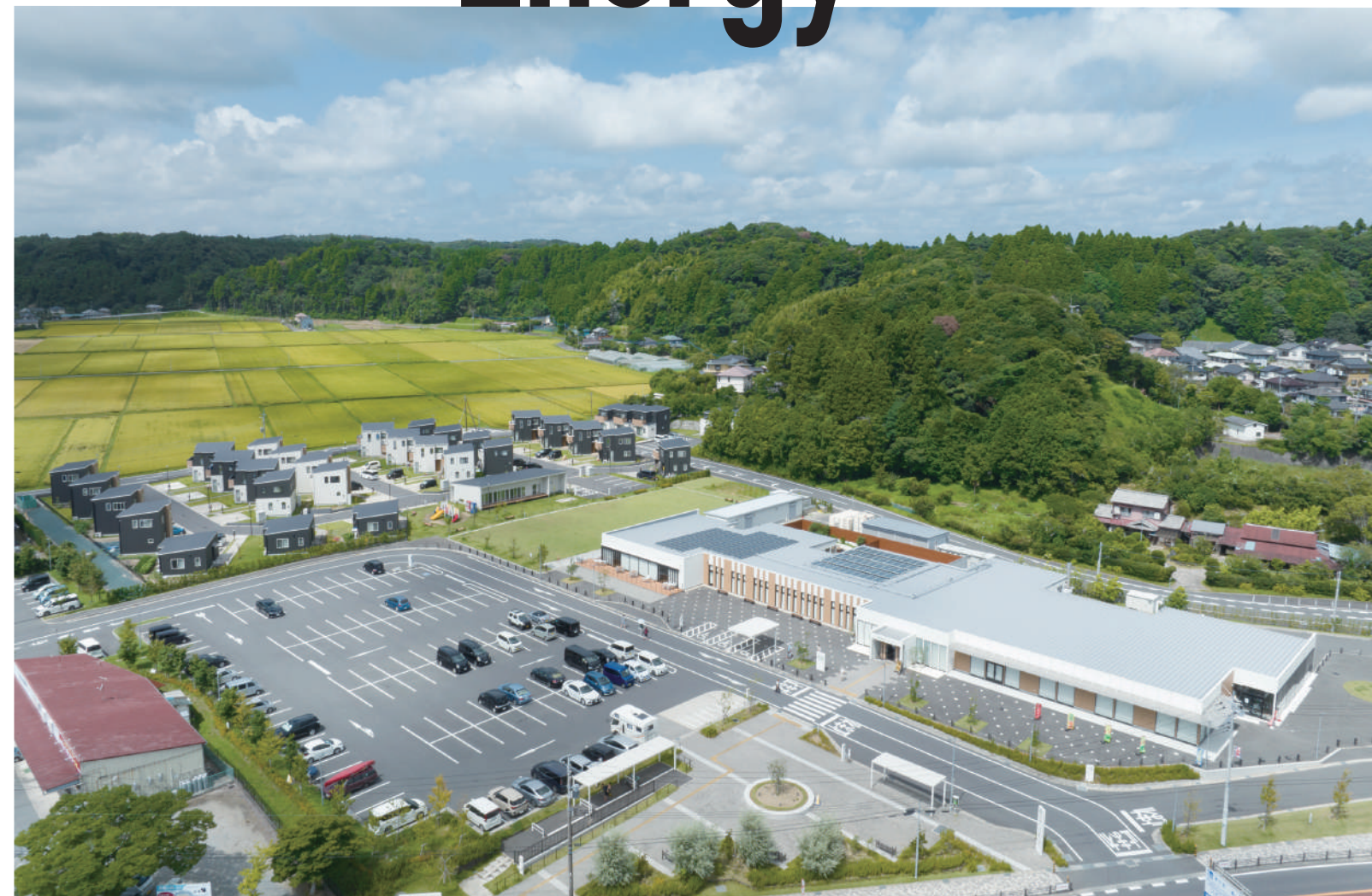


環境・エネルギー分野

Environment & Energy



パシフィックコンサルタンツ株式会社
PACIFIC CONSULTANTS CO.,LTD.

〒101-8462 東京都千代田区神田錦町三丁目22番地
地域本社・支社：首都圏、北海道、東北、北陸、中部、大阪、中国、四国、九州、沖縄
海外拠点：シンガポール支店、ジャカルタ支店、マニラ支店

プロフェッショナルコンサルタントとしての資質を磨き上げ、
先進的な統合ソリューションサービスにより、
新しい価値を社会に提供し続ける。

建設環境領域
CONTENTS

- P03 部長ご挨拶
- P05 事業紹介
- P09 分野の仕事
- P10 ホットトピックス
- P17 社員の日常
- P19 技術者インタビュー
- P21 人材育成
- P22 支社紹介



脱炭素社会
自然共生社会
循環型社会
気候変動適応社会の実現

エネルギー・気候変動領域
TRANSITION
— 化石燃料中心のシステムからの転換 —

- 分散型エネルギーシステムとレジリエンス
- エネルギーマネジメントとフレキシビリティ
- 熱需給の脱炭素化
- 炭素循環
- サーキュラーエコノミー

エネルギー・気候変動領域
CONTENTS

- P04 部長ご挨拶
- P11 事業紹介
- P15 分野の仕事
- P16 ホットトピックス
- P18 社員の日常
- P19 技術者インタビュー
- P21 人材育成
- P22 支社紹介

- 地域と企業のサステナビリティの支援
- 次世代エネルギーシステムと環境保全の両立



建設環境領域

サステナビリティへの挑戦

環境面から 社会の持続可能性を支える仕事

建設環境領域は、国土・流域・自治体単位の課題から、開発エリアの環境影響、さらには個々の住民の生活環境や生物の生息・生育環境まで、多様な空間スケールを対象としています。また、その変化のプロセスや将来の動向も踏まえながら、自然と社会の調和を目指します。社会の持続可能性を支える基盤として、開発と保全の両立を具体的に形にしていける役割を担っています。

業務の中心は ステークホルダーとの調整・協働

業務の中心は、意思決定に関わる人々（行政、事業者、地域住民、有識者、他分野の技術者など）との調整・協働です。技術的成果をベースに、異なる価値観や利害を踏まえながら合意形成を図り、実現可能な解決策を導くことが重要な役割です。中でも、社内の他分野と協働できる体制は当社ならではの強みです。設計・計画部門と連携し、プロジェクトの上流段階から環境視点を意思決定に反映していきます。

フィールドとデジタルで支える 環境技術

これらの業務を支えるのは、フィールド調査とデジタル技術の両輪です。対象環境とそれに及ぼす影響を正確に調査・分析し、GIS解析やシミュレーション等を用いて将来の環境変化を予測します。その結果を基に環境計画やガイドラインを立案します。さらに、これを分かりやすく図書化して関係者と共有し、実装につなげます。多様なデータを統合・可視化し、科学的根拠に基づいて意思決定を支えることが、環境技術者に求められる重要な役割です。

社会に貢献し、 自らも成長できる仕事

環境技術者としての活躍領域がますます広がっています。世界的にサステナビリティが重視される中、環境だけでなく社会や経済の課題にも携わり、幅広い視点で持続可能な未来づくりに貢献できることが、この仕事ならではの大きな魅力です。また、専門性を磨きながら多様な立場の人々と協力し、難しい課題の解決に挑戦できることも、この領域で働く醍醐味の一つです。自らの技術や知見が意思決定や社会の現場で活かされ、その成果を実感しつつ自身も大きく成長できること——こうした経験こそが、建設環境領域で働くうえでの何よりのやりがいと言えるでしょう。



パシフィックコンサルタンツ株式会社
社会イノベーション事業本部 環境共生部

渡辺 弘生 わたなべ ひろお

2007年中途入社、2025年より現職。
環境影響評価手続きを中心に、開発許可、事業認定、野生鳥獣保護管理、自然再生、企業の30by30貢献支援など、幅広い業務に従事。

エネルギー・気候変動領域

カーボンニュートラルを目指して

建設コンサルタントの「枠を超える」

当社では1990年頃から、地球環境問題に関心を持つメンバーが集まり、それまでにはなかった新たな領域を切り拓いてきました。開発途上国の環境課題の調査や各国の政策分析、京都議定書で導入された温室効果ガス削減の国際的な仕組みづくりの支援、気候変動の日本への影響評価や国の適応計画策定にも貢献してきました。これらの先駆的実績は、建設コンサルタントの枠にとらわれず、自ら課題を見つけ、新しい分野に挑戦してきた当社の社風を表しています。

地域から脱炭素化に挑む

私たちは2009年に地域エネルギー事業の専門部署を立ち上げ、地域資源を活用した分散型エネルギーシステムの構築に取り組んでいます。2015年には「パシフィックパワー株式会社」を設立し、自治体と連携した地域エネルギー事業を展開。2020年のカーボンニュートラル宣言以降は、総合建設コンサルタントとしての強みを活かし、社会インフラ分野での脱炭素化にも力を入れています。私たちは、エネルギーを「供給する側」だけでなく、「使う側」の視点から日本のエネルギー転換を進めます。コンサルティングだけでなく実際の事業にも取り組みながら、地域の脱炭素化を進めていることが当社ならではの強みです。

学びを続け、 つながりで社会を変えていく

気候変動を取り巻く社会の状況は、世界の動きにも合わせて変化し続けています。そのため、本質を追求しつつ常に新しい知識を学び、未知のテーマにも挑戦していくことになります。仕事では、国内外の実務者や研究者と交流することも多く、最前線の知見に触れることもあります。そうした出会いは、知識を得るだけでなく、新たな視点や刺激をもたらしてくれます。課題を知り、調べ、考え、解決策を形に。多様な技術やアイデアをつなぎ、自治体や企業と協力しながら計画や事業へと発展。社会的意義の大きいテーマに挑み、知的な探究心を持続可能な社会づくりにつなげたい人にとって、大きな成長の機会にあふれたフィールドです。



パシフィックコンサルタンツ株式会社
社会イノベーション事業本部 GX推進部長

井伊 亮太 いい りょうた

1998年入社。
環境部(当時)で約12年勤務の後、社内のエネルギー分野の立ち上げに参加し、2024年より現職。
環境システム工学を専門とし、LCAの手法開発と適用、地域の地球温暖化対策やエネルギー事業、廃棄物・資源循環分野のカーボンニュートラルなどをテーマとした調査・研究業務に従事。



成田空港の 更なる機能強化 環境影響評価

成田空港の年間発着容量を50万回に拡大するため、B滑走路の延伸と、C滑走路の新設を行うプロジェクト。その環境影響の予測と、環境保全の検討を実施。

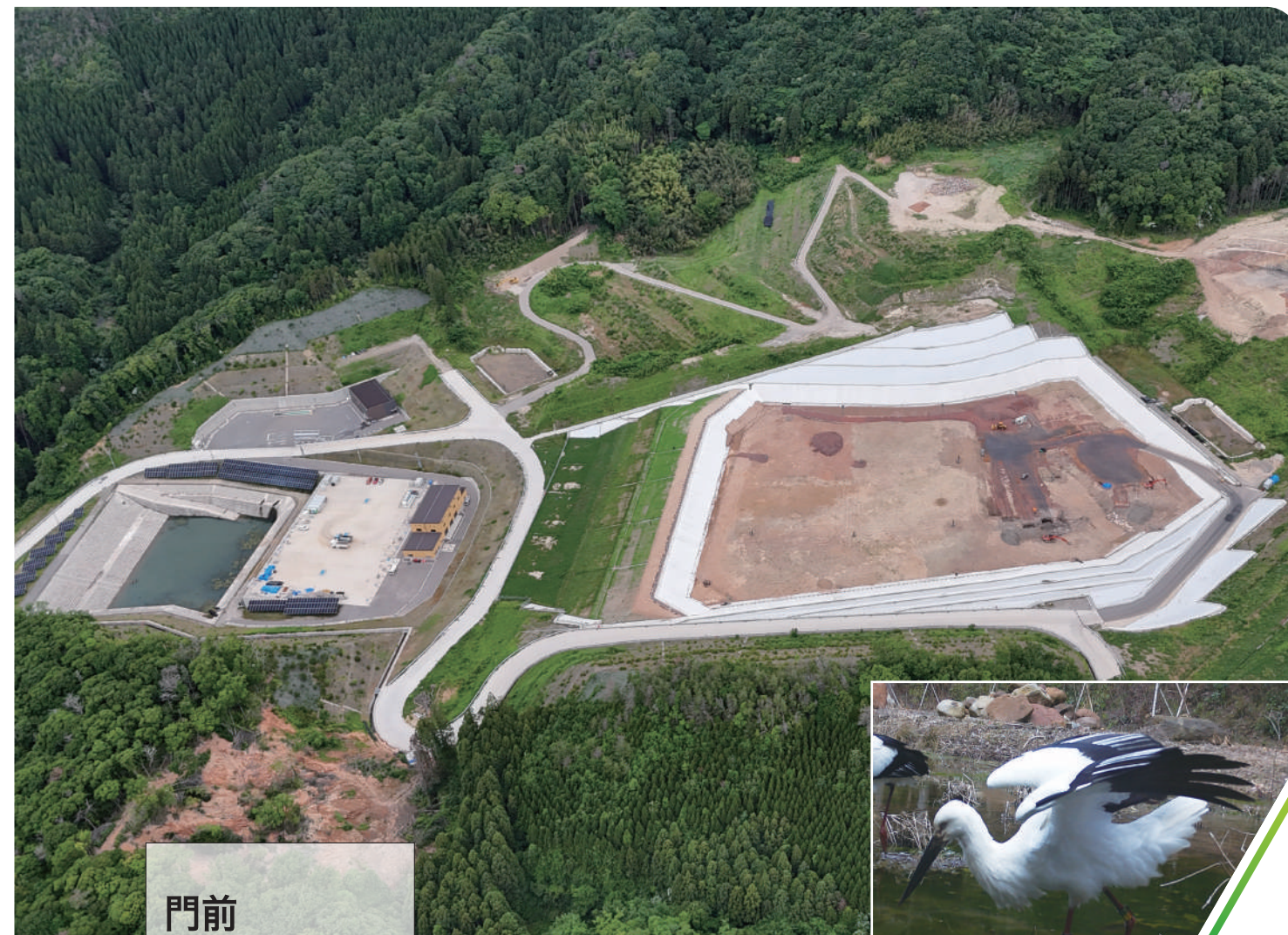
エンジニア



社会イノベーション事業本部 環境共生部
次世代環境創造室

淵澤 智典 ふちざわ ともり

2002年入社、東京オフィス配属。
空港、鉄道、道路、市街地再開発、エネルギー施設等の多様な開発事業において環境影響評価業務に従事。
生活環境の保全対策検討、効果検証等の業務にも携わる。
自治体の環境基本計画や地球温暖化対策実行計画の策定支援、再生可能エネルギー導入支援などの経験も有し、環境配慮に関する政策立案から事業実装まで一貫した支援を行っている。



門前 クリーンパーク 管理型 最終処分場

石川県輪島市門前町にある3期合計埋立容量約340万m³の管理型産業廃棄物最終処分場。石川県条例に基づく環境影響評価手続、環境保全措置・事後調査を実施。

エンジニア



社会イノベーション事業本部 環境共生部
次世代環境創造室

宇田川 学 うだがわ まなぶ

1992年入社、東京オフィス配属。
入社後、廃棄物処理施設整備事業の環境影響評価業務に従事。
業務領域を空港・道路等にも広げるとともに、技術指針の策定や自治体のアセスメント制度設計にも関与。
近年では環境デューデリジェンス業務にも携わる。

エンジニアからの一言

限界集落住民の思いを汲み取り、自然環境に配慮した最終処分場の整備を進める事業者を支援しました。開業間際に能登半島地震に襲われるなどしましたが、現在は、震災廃棄物の埋立処分を担い、復興の要となっています。2年続けてコウノトリの飛来も見られました。感慨もひとしお。





千曲川 中流域 自然再生事業

千曲川・犀川自然再生計画書に基づき、洪水等の自然の力を活かして、千曲川の特徴的な生物が良好に生息・生育できる環境の再生を目指す。

エンジニア



社会イノベーション事業本部 環境共生部
環境マネジメント室

上田 夏希 うえだ なつき

2011年入社、東北支社配属。
入社後、環境アセスメント・環境調査を中心に担当。
入社3年目頃から河川の水再生事業にも携わる。
現在も、環境アセスメント、河川環境業務を中心に担当。

出典：国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所

エンジニアからの一言

千曲川らしい環境である「砂礫河原の再生」を目標の一つとし、平成26年から事業を行っています。令和元年に大規模な出水があり、河川内の環境が大きく変化しました。その中で、発生した新たな課題を踏まえ、生物の生息環境としての砂礫河原をどのように再生・維持していくかを試行錯誤しています。



阿蘇グリーン インフラの 貢献度評価 指標検討

熊本県阿蘇地域の草原、森林、水田などのグリーンインフラを対象に、水源涵養機能などのグリーンインフラとしての機能を評価し、地域の管理活動を支援するための新たな資金調達手法の検討を支援。

エンジニア



社会イノベーション事業本部 環境共生部
自然資本マネジメント室

小笠原 奨悟 おがさわら しょうご

2010年入社、中部支社配属。
入社後、環境アセスメントや河川環境分野の業務経験を経て、近年はグリーンインフラやNbS(Nature-based Solutions)、ネイチャーポジティブ等をキーワードに、国土交通省、環境省などの調査研究・政策立案支援や自治体の行政計画策定、地域実装の伴走支援などに携わる。

エンジニアからの一言

新たな資金調達手法の構築支援を通じて、地域の生業や暮らしを支えるグリーンインフラの維持・活用に関わることができる点にコンサルタントとしてのやりがいを感じます。また、業務を通じて地域の新たな魅力や多様な地域・景観を維持することの重要性にも改めて気付かされます。

環境アセスメント分野

■ 仕事内容

開発事業の実施に必要な法令等に基づく環境アセスメント（環境影響評価）手続を支援し、環境に配慮した事業の推進に貢献します。

■ 特徴と仕事の魅力

当社は1980年代から長年にわたり開発事業に係る調査・予測・評価や環境影響評価図書の作成など、環境アセスメント手続の各種支援を行ってきました。社内の計画・設計部門とも連携することで、事業特性を踏まえた課題を的確に把握し、環境に配慮した事業とするための環境保全措置の提案を積極的に行っています。総合建設コンサルタントならではの技術力と総合力を活かし、事業における環境配慮の実現に貢献できることが、環境アセスメント業務の魅力です。



環境リスクマネジメント支援分野

■ 仕事内容

事業活動に伴う環境への影響をモニタリング・分析・評価し、環境との調和や環境リスク低減に向けた技術提案を行います。

■ 特徴と仕事の魅力

環境アセスメント分野で長年培ってきた影響予測・評価技術を活かし、事業活動に伴う周辺の生活環境や自然環境への影響を的確に把握、分析・評価するとともに、環境配慮対策の提案を行うことで、地域との共生や、持続可能な事業運営に貢献しています。また、投資・事業判断に関わる環境リスクを可視化し、リスク低減に向けた具体的な対策や助言を行うなど、環境デューデリジェンスの実施も支援しています。



環境政策・計画策定支援分野

■ 仕事内容

国のネイチャーポジティブやグリーンインフラに関連する調査研究・政策立案、地方公共団体の計画策定や地域プロジェクトの実装を支援します。

■ 特徴と仕事の魅力

ネイチャーポジティブの実現やグリーンインフラの地域への実装を目指して、国の調査研究・政策支援から地方公共団体における地域プロジェクトの伴走支援まで、幅広い業務を展開しています。特に、グリーンインフラやNbS (Nature-based Solutions) など、自然環境を活用した地域づくりに関する業務の実績は国内のコンサルタントでも有数であり、最新の政策・研究にも関わることができるやりがいのある仕事です。



環境価値創造支援分野

■ 仕事内容

民間企業におけるネイチャーポジティブの推進に向けて、自然資本の価値評価や自然共生サイトの認定取得などの取り組み支援、企業の戦略策定支援などを展開しています。

■ 特徴と仕事の魅力

生物多様性は社会経済を支える重要な基盤であり、その劣化は世界のGDPの半分以上に影響を与えると予測されています。生物多様性の保全のため、GISや環境DNAなどの技術を活用し、地域や事業における自然環境や生物多様性の特徴や強みを明らかにします。また、自然との共生に資する計画づくりを支援し、生物多様性を「守る」だけでなく、「活かす」取り組みに発展させることで、企業のネイチャーポジティブ経営を支援します。



次世代エネルギーの実現に向けた貢献

近年、カーボンニュートラルの実現に向けた新たな取り組みとして、バイオエタノールなどを原料とするSAF（持続可能な航空燃料:Sustainable Aviation Fuel）製造事業が進められており、航空分野におけるCO₂排出量削減に資する対策として注目されています。こうした事業では、多様な環境要素への配慮とともに、適切な環境アセスメント手続の実施を求められる場合があります。

当社は、環境アセスメントに係る調査・予測・評価および手続を通じて、事業における適切な環境配慮を支援しています。



環境DNA調査による生物分布モニタリング

近年、水・土壌などに含まれるDNAを分析し、生物の分布状況を推定する環境DNA調査が社会実装されつつあります。本手法は、従来の捕獲・観察を基本とする調査に比べ、調査員の技能差や時間・コストの制約を克服し、広域かつ効率的な生物把握が可能となります。

当社は、研究機関との連携により技術開発を進めており、蓄積した知見に基づく調査を通じて、生物の分布状況を的確に把握し、持続可能な地域づくりやESG経営を支援しています。



民間企業のネイチャーポジティブ推進支援

環境アセスメントで培った自然環境調査や自然環境の保全・再生手法に関する知見、生物多様性やグリーンインフラなどに関する調査研究・政策立案支援の実績などを活かして、自然共生サイトの認定支援や森林等の未利用ストックの活用方策検討などの民間企業を顧客としたネイチャーポジティブ推進支援を展開しています。

当社のステートメントにある「すべての生命の源である美しい地球、その環境を守り、未来へ引継ぐこと。」の実現に向けて、自然環境・生物多様性分野の専門家としてのサービス提供を行っています。





北海道鹿追町 自営線 マイクログリッド

役場周辺公共施設を結ぶ「自営線ネットワーク」を整備。
太陽光発電・蓄電池・地中熱ヒートポンプのエネルギーマネジメントで
CO₂削減とレジリエンス強化を実現。

エンジニア



社会イノベーション事業本部 GX推進部
エネルギー事業化支援室

山下 大樹 やました だいき

2016年中途入社、東京オフィス配属。
前職は早稲田大学研究員講師、
日本学術振興会特別研究員として研究を重ねつつ、複数大学で教育にも従事。
入社後は主に電力エネルギー分野の事業化支援に従事している。

エンジニアからの一言

北海道鹿追町の公共施設9施設を自営線で結び一括受電化した本事業では、太陽光発電の余剰電力を蓄電池や地中熱ヒートポンプにより「電気」または「熱」として蓄える、電熱統合型エネルギーマネジメントを実現しました。当社は構想から設計、公募発注、施工モニタリングまで一貫して支援しました。



のと里山空港 脱炭素化調査

のと里山空港の2050年カーボンニュートラル実現に向けた調査。
太陽光発電設備や蓄電池の整備、
空港施設への省エネ設備の導入、空港車両のEV化などを検討。

エンジニア



社会イノベーション事業本部 GX推進部
エネルギー事業化支援室

岸 直矢 かし なおや

2021年中途入社、東京オフィス配属。
2013年に建設コンサルタント会社に入社し、ダム、河川関連施設、トンネル等に付帯する電気設備の設計業務に従事。
2016年からは電力関連分野のODAによる海外プロジェクトに携わる。
2021年に当社へ入社後は、主に空港の脱炭素化、地域における再エネ導入、マイクログリッド化に関する業務等を担当している。

エンジニアからの一言

のと里山空港におけるCO₂排出を2030年度に76%削減し、2050年度に実質ゼロとする野心的な目標の実現に向けて、太陽光発電、省エネ設備、EV化等の導入手法の調査を行いました。多雪地域という特性を踏まえ、太陽光発電は垂直型や積雪対応のカーポート型も視野に複数案を検討しました。



愛媛県大洲市 エネルギー ビジョン策定・ 再エネ導入支援

再エネ導入による地域課題解決に向けたビジョン策定を支援。
木質バイオマス、小水力発電、観光地区の再エネ化等、
複数プロジェクトを検討。

エンジニア



社会イノベーション事業本部 GX推進部
気候・資源政策室

斎藤 淳一郎 さいとう じゅんいちろう

2013年中途入社、東京オフィス配属。
入社以来、自治体のエネルギーや脱炭素関連の計画策定支援、
再エネやマイクログリッド導入支援業務に従事。
環境省の分散型エネルギーシステム構築や廃棄物エネルギー活用に関する検討業務に従事し、
各種ガイドの作成にも携わる。

エンジニアからの一言

「世界の持続可能な観光地アワード」文化・伝統保全
部門で世界1位に選出されたまちで、地域の特徴を活
かしながら、再生可能エネルギーをどのように導入す
ればまちがさらによくなっていくのか、地域の方々と
ともに考え、事業化に向けた取り組みを進めています。



廃棄物・資源循環 分野における 2050カーボン ニュートラル実行 計画等検討業務

一般廃棄物を主な対象として、
廃棄物・資源循環分野の2050年カーボンニュートラル
実現に向けた施策・取り組みを検討。

エンジニア



社会イノベーション事業本部 GX推進部
気候・資源政策室

山本 圓 やまもと まどか

2017年中途入社、東京オフィス配属。
2001年に開発コンサルティング会社に就職し、環境・社会分野担当として開発途上国の援助案件に従事。
パシフィックコンサルタンツに転職し、気候変動対策に関する政策・計画・調査に従事している。

エンジニアからの一言

カーボンニュートラル社会の実現と資源循環の拡大・
高度化に関わる重要な業務です。さまざまな情報を整
理して現状を分析し、優先順位を踏まえて広い視点か
ら対策を考えることは大変ですが、チームの皆さんと議
論しながら進めるのは楽しいですし勉強になります。

脱炭素政策・経営分野

■ 仕事内容

環境省など国の行政機関や地方公共団体に対し、脱炭素や循環経済の実現に向けて、制度の検討や普及戦略の立案、補助事業の設計・評価、実践ガイドの作成支援などを行っています。

また、民間企業のカーボンニュートラル化に向けて、取り組みの評価や将来シナリオの分析から実装支援まで、一貫したコンサルティングを提供しています。

■ 特徴と仕事の魅力

この分野の魅力は、社会に大きな影響を与える政策そのものの形成に関わることができる点にあります。自ら関与した制度や仕組みが全国規模で展開されるため、社会全体に対するインパクトを実感できる挑戦的な仕事です。また、政策と現場の双方を理解し、それらをつなぐ役割を担うことで、高度な分析力や構想力を身につけることができる点も大きな特徴です。



関連グループ会社の紹介

パシフィックパワー株式会社

■ 自治体新電力を核に地域のGXを加速させる

パシフィックパワーは地域新電力事業の推進を目的に、パシフィックコンサルタンツの100%子会社として2015年に設立されました。電力の小売・卸売、およびそれに関連する事業を通して新たな地域経営のスタイルを自治体とともに探り、地域振興に結びつけていくことを目指しています。

2026年現在、自治体新電力20社を設立、自治体新電力を核に脱炭素化を経済の成長とともに実現する地域版GX(グリーントランスフォーメーション)の実現に向けてさまざまな活動を展開しています。



エネルギー事業分野

■ 仕事内容

再生可能エネルギーや省エネルギー設備、蓄電池等を活用したエネルギー事業の構築に加え、マイクログリッド等の分散型エネルギーシステムの導入支援を行っています。

また、空港、港湾、鉄道、道路、廃棄物処理施設など、社会基盤を支える多様なインフラの脱炭素化にも取り組んでいます。

■ 特徴と仕事の魅力

社会を支えるインフラを変革する、スケールの大きな仕事に関われることが特徴です。エネルギー、交通、都市など複数の分野を横断した高度な知見を用い、技術・制度・ビジネスを一体的に捉えたコンサルティングを提供します。民間企業とも連携して新たなビジネス創出に関われる点も、大きな魅力の一つです。



資源循環で描く脱炭素社会

廃棄物・資源循環分野における2050年カーボンニュートラルの実現に向け、定量的なシナリオ分析や廃棄物処理システム・施設整備の方向性に関する調査・分析を行っています。これらの成果は中央環境審議会での議論や国の計画策定に活用されており、政策立案の基盤を支えています。

さらに、太陽光パネルの3R推進スキームの構築や資源回収拠点の整備に関するガイダンス作成など、地域での資源循環の高度化に向けた取り組みも支援しています。

資源循環分野からの地域循環共生圏モデル(2050年に向けたイメージ図)



出典:2050年カーボンニュートラルに向けた廃棄物分野の脱炭素対策について 令和3年4月6日
環境省環境再生・資源循環局(中央環境審議会循環型社会部会(第37回)資料)

地域を支える自立型エネルギー

マイクログリッドとは、太陽光発電や蓄電池、自営線などを組み合わせ、地域でエネルギーを地産地消する分散型エネルギーシステムです。当社は、構想から運用まで一貫して支援する体制を強みに、国内でも有数の社会実装実績を有しています。

福島県相馬市では震災復興の一環としてスマートコミュニティを構築し、経済産業大臣賞(新エネ大賞)を受賞。北海道鹿追町では太陽光発電+蓄電池+地中熱ヒートポンプによる自営線マイクログリッドが新エネ大賞を受賞し、「脱炭素先行地域」にも選定されました。千葉県睦沢町では、2019年の台風15号で約93万戸が停電する中、マイクログリッドにより道の駅への電力・温水供給を継続し、全国から注目を集めました。現在も全国各地でプロジェクトが進行しています。



分野横断で進めるインフラ脱炭素

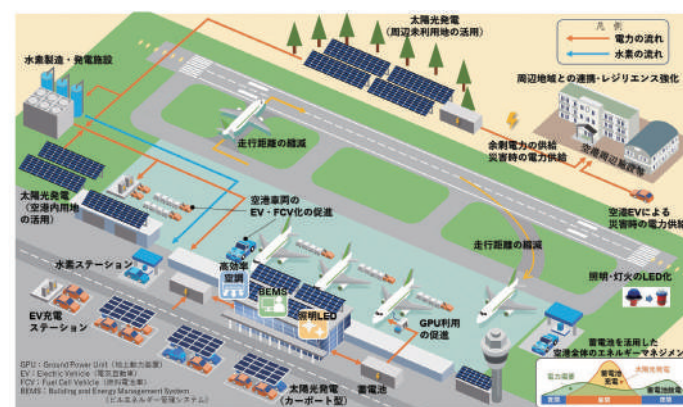
当社は、総合建設コンサルタントとしての技術力を結集し、各種インフラ分野の脱炭素化に取り組んでいます。

空港分野では、航空部と連携し、国土交通省の空港脱炭素化推進のための計画策定ガイドラインに係る検討をはじめ、各地の空港脱炭素化推進計画の策定支援、空港施設の省エネ化、空港車両のEV化、太陽光発電導入可能性等の検討などを行っています。

加えて、カーボンニュートラルポートの検討、鉄道沿線のカーボンニュートラル化や蓄電池の活用検討、道路脱炭素化推進計画の策定支援、上下水道施設等における太陽光発電、小水力発電等の導入可能性検討など、多様な分野で取り組みが広がっています。

分野横断の知見を強みに、社会全体のGXを推進しています。

空港の炭素化のイメージ



出典:国土交通省航空局「空港脱炭素化推進のための計画策定ガイドライン(第二版)」(令和4年12月)

2022年入社

うめはら みく
梅原 実玖

勤務場所	東京オフィス
分野	環境マネジメント・ 環境アセスメント
■ 社会イノベーション事業本部 環境共生部 環境マネジメント室	
■ 東京農工大学大学院 農学専攻 自然環境資源コース 修了	

趣味

音楽フェス

最近はロックンやCDJなどの音楽フェスによく行きます。飲食ブースも充実しており、音楽とあわせてイベント全体を楽しめるのが魅力です。初めて聴くアーティストに出会えることも多く、気に入るとその後ソロライブにも足を運びます。



1日のスケジュール

6:00 ● 起床・準備

二度寝したい衝動を抑えて起床します。
一日をしっかり乗り切るため、朝食は欠かさずとるようにしています。

8:30 ● 出社

出社後はまずチャットやメールを確認し、連絡事項を把握・返信します。
その後、各業務の期限や優先度を整理し、その日の作業計画を立てます。

9:00 ● 資料作成

都心の道路の沿道における騒音や振動などの環境影響を検討する業務の資料作成。
住民の方から寄せられた振動に関する苦情への対応として、
現地で振動調査を実施するための調査計画書を作成します。
現地踏査で撮影した写真や調査イメージ図を活用し、各調査地点の目的や調査方法、
安全上配慮すべきポイントなどが明確に伝わるよう整理します。

10:30 ● 社内打合せ

作成した資料を業務メンバー内で共有し、意見交換を行いながら内容をブラッシュアップします。
要点や確認事項がわかりやすいよう、補足資料も別途準備しました。

12:00 ● 昼食

席務さんや室のメンバーと昼食に行きます。
最近では、スペイン料理店で食べたチキンステーキがとても美味しかったです。

13:00 ● プロポーザル受注に向けた提案検討

仕事の取り方の一つに、発注者が募集を行い、企業同士で提案内容を競う「プロポーザル方式」があります。
今回、国の道路整備に伴う環境調査や騒音影響検討の業務がこの方式で公示(募集)されたため、
受注に向けて社内で提案内容の整理やプレストを行いました。
道路部や交通政策部との連携業務であり、専門分野以外の知見にも触れられるため、
視野を広げる良い機会となっています。

15:00 ● 発注者打合せ

道路沿道における環境検討業務について、発注者とWEB打合せ。
振動の現地調査計画について説明し、了承を得ました。
WEB打合せは対面比比べて相手の表情や理解度を把握しづらい面がありますが、
一方的な説明にならないよう、相手の反応や間の取り方を意識しながら進めています。

17:00 ● 出張先へ移動

翌日は福島県で発注者との打合せがあるため、新幹線で移動し前泊します。
お土産を見たり、地元のお店で夕食をとるなど、出張を満喫します。

2022年入社

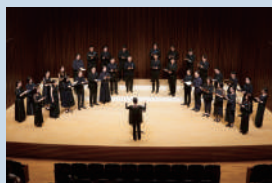
ほさか ともき
保坂 朋輝

勤務場所	東京オフィス
分野	地域脱炭素政策・ 計画立案
■ 社会イノベーション事業本部 GX推進部 地域脱炭素室	
■ 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 修了	

趣味

合唱

社会人の団体に所属し、休日を中心に練習に参加しています。
一昨年夏には、3週間の休暇をいただいてドイツで演奏旅行に参加してきました。業務を計画的に進めてスケジュールを調整しながら、仕事と趣味の両方に全力投球しています。



1日のスケジュール

8:00 ● 起床・準備

朝が弱いので、出社時間は遅めに設定しています。通勤電車の混雑を避けることができて一石二鳥です。

10:00 ● 出社

出社したらまず、チャットやメールのチェックをします。
続いて、タスク管理アプリと今日のスケジュールを見ながら、一日のスケジュールを組み立てます。

10:30 ● 発注者との打合せ

ごみ処理施設の建設に合わせたエネルギーの地域内利活用に関する業務で、発注者と打合せ。
大阪本社の資源循環マネジメント、環境共生のチームとの仕事で、東京のメンバーはオンラインで参加。
私たちのチームでは、周辺の関係者に対するヒアリングの内容について提案し、
発注者から進め方について承諾を得ました。

12:00 ● 昼食

神保町での昼食は選び放題。一人で昼食を食べるときは、その時の気分で場所を決めます。
今日は久しぶりのお店でパスタランチを。

13:00 ● 提案書作成

今は、国の業務で、自治体に対する技術的な情報提供を行う業務についての提案書を執筆中。
まとまった作業時間を確保して、自分の担当パートについて、
業務の進め方や業務を進めるうえでの留意点を考えます。
発注者が業務に求めていることは何か、当社の強みが伝わりやすいような構成は何か、
読み手のことを考えながら執筆するのは、時間がかかりますが取り組み甲斐のある面白い仕事です。

16:00 ● 社外会議への参加

ある自治体での脱炭素プロジェクトのマネジメント業務の一環で、
関係者が集まる社外会議にオンライン参加。
プロジェクトマネージャーの役割として、
自治体担当者と同じ情報量をインプットしておくことが今日の会議での目標です。
国の情報提供の方針を検討する業務と、現場での脱炭素プロジェクトに関わる業務では
必要とされるスキルは異なるので、頭を切り替えて臨みます。

17:00 ● 情報調査作業

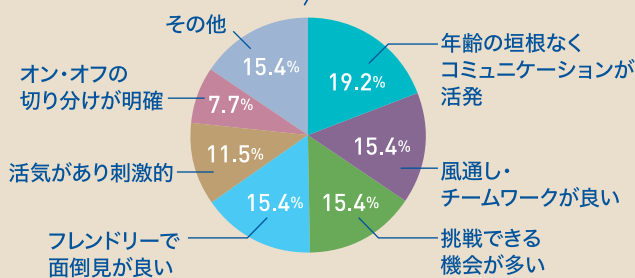
夕方の時間は、メールやチャットの連絡が減って絶好の作業時です。
業務で必要な先進的な脱炭素事例について、情報収集を行います。
最近はAIも活用することで、自分では見つけきれない情報を発見できるなど、
効率的に作業を進める工夫をしています。

19:00 ● 退社

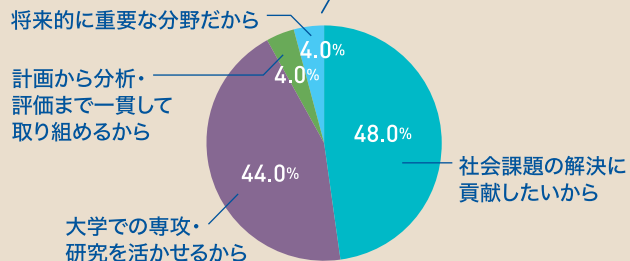
業務が一段落ついたので今日はここで退社します。
退社後は家事をしたり、週末の合唱練習のための予習をしたりして過ごします。

若手社員アンケート

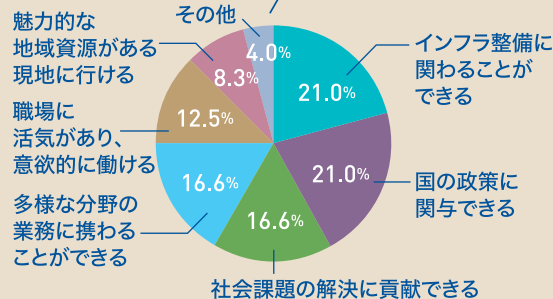
一言で表すとどんな職場？



環境・エネルギー分野を選んだ理由は？

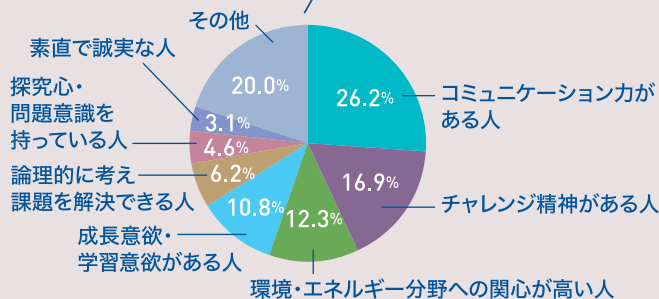


環境・エネルギー分野の魅力は？



社員アンケート

どんな人を求めていますか？



パシフィックコンサルタンツの 良さは何ですか

永友 社員の挑戦心に応えてくれる環境があることだと思います。「どういうプロジェクトに参加したいか」「どう進めたいか」は、かなり自主性に任せてもらえます。自分から動けばチャンスが巡ってくる会社です。

中国 幅広い分野のプロフェッショナルがすぐ近くにおり、気軽に相談できることも魅力であると思います。道路や鉄道、空港などのインフラ設計チームとタッグを組んで環境配慮への提案ができることは当社ならではの大きな強みと考えており、そこに仕事の楽しさや面白さを感じています。

環境・エネルギー分野を 志望した理由を教えてください

熊倉 大学時代に植物の生態学を研究しており、その学びが活かせる仕事に就きたいと考えていました。フィールド調査がメインの会社も視野に入れましたが、自分の提案で社会に貢献できる仕事に魅力を感じ、当社を選びました。インターンシップで感じた、前例のないことに挑戦する姿勢や自由闊達な雰囲気が決めた手になりました。

永友 エネルギー分野で国の政策支援に携わりたいと考えていたので、環境・エネルギー分野はまさに希望に合っていました。エネルギー事業・政策を扱うコンサルタント会社の中でも、国の仕事に取り組めることに加え、現場を熟知した専門家がいる環境は当

社ならではの。グループ内に地域エネルギー事業を担う会社があることも、入社を決めた理由の一つです。

実際に入社して、入社前のイメージと 違ったところはありますか

熊倉 入社前は「相当忙しいんだろうな」と覚悟していましたが、みなさん自分で仕事をコントロールしながら上手に休んでいることがいい意味でギャップでした。

永友 デスクで黙々と仕事に没頭しているイメージを持っていましたが、実際は社内で相談したり、会話の中から仕事が広がったりする場面が多いのも意外でした。

谷畑 私も入社前は、もっと図面を引いたりする職場を想像していました。実はお客さまとの会話の中で仕事が進むことも多く、技術知識だけでなく、相手の考えを汲みながら進める「対人スキル」も必要なんだ、というのが発見でしたね。

仕事を通して達成感を 感じられたことはありますか

谷畑 強く印象に残っているのは、空港の脱炭素化推進の支援業務です。国が初めて空港の脱炭素社会の実現に向けた基本方針を示すための業務だったのでプレッシャーも相当でした。「もっと現場の目線を入れてほしい」「実証段階の新技術の活用も検討してほしい」といった要望に、航空部の方々と連携しながら奮闘しまし

た。大変でしたが、自分の考えが反映された基本方針が公表され、各空港が脱炭素計画を作っていくのを見た時、社会に貢献できた実感しました。大きく成長できた経験です。

中国 環境アセスメントは数億円規模の大きな仕事もありますが、最終的に出来上がるものとしては分厚い図書でありそれを納品すれば終わりとなるため、成果が見えづらい仕事かもしれません。だからこそ、業務完了の際に、発注者から「ありがとうございます」「お疲れ様でした」と言われた時には、苦勞が報われたような達成感があります。もう一つは、地域住民の方との直接的なやりとりの場です。住民説明会などで手厳しい意見をいただくこともあります。意見は関心を持っていたいている証。反対意見も含めて受け止め、必要な環境配慮を事業に反映していく。そこがコンサルタントの腕の見せ所であると考えています。

発注者との信頼関係の 築き方を教えてください

中国 発注者側の目線に立つことです。インフラ施設は社会に必要な一方、生活や周辺の自然環境に直接影響するため、住民の方から環境面の意見が多くあがることもあります。反対意見について理解できる部分もありますが、発注者側と契約関係にあるコンサルタントの立場としては反対意見に同意し事業そのものを否定することはできません。そのような立場ではありますが、「住民の方に理解していただくために、こう伝えませんか」「この意見は事業計画に反映した方がいいかもしれません」といった提案を行うことで、合意形成を図りながら事業を前に進めることを心がけています。

永友 発注者のご依頼に対して初動を素早くする姿勢を大切にしています。データ分析の仕事では、前提条件が非常に重要です。分析には時間がかかるため、前提条件で認識の齟齬が生じると、後から「そういうことじゃない」という結果になり取り返しがつきません。素早い反応の中でも丁寧なコミュニケーションを心がけて、「この人になら任せられる」という信頼関係につなげています。

谷畑 地域の脱炭素計画で大切にしているのは、地域の課題をきちんと捉えることです。実際、脱炭素そのものよりも、地域活性化や経済的なメリットを望む地域も多いんです。だからこそ、脱炭素やエネルギーの活用は、その解決手段の一つだと説明しています。「この人は地域課題を理解してくれている」と感じてもらえることが大事ですね。

ワークライフバランス向上のために 取り組んでいることはありますか

熊倉 オンとオフの切り替えを大切にしています。予定があつたり、ちょっと疲れたなという日は、日中に集中して早めに帰ったり。必要なのは、次の日の自分に託す勇気です（笑）。オフは同期と旅

行したり、社内の仲間と釣りを楽しんだり。建設環境領域は自然が好きな人が多いので、休日も自然の中にいることが多いんです。

永友 意識しているのはメリハリです。業務内容やプライベートの予定に合わせて、出社とテレワークを柔軟に使い分けながら働いています。仕事に優先順位をつけ、今日やるべきことと明日に回せることを整理し、限られた時間で最大限の成果を出せるよう工夫しています。

お互いの組織の印象や違い、 双方の関係について教えてください

中国 建設環境領域とエネルギー・気候変動領域はもともとひとつの部門であり、今も同じフロアで距離が近い関係にあります。テーマが重なる仕事で連携する機会もあります。環境というジャンルは範囲が広いので、気軽に相談しあえる関係にあることは心強く感じています。いまでも合同で歓迎会などを開催する仲でもあります。

永友 廃棄物処理施設の環境アセスメントと、そこで発生するエネルギーをどう活用するかという話がセットになったり、お互いの強みを合わせられることがこの分野の良さです。僕から見た建設環境領域は、現場に行く機会が多く、よく動き回っていて、休日も自然の中で過ごすようなアクティブな人が多い印象です。

熊倉 建設環境領域は、「あそこであの鳥が見られたぞ!」みたいな話題ですごく盛り上がります（笑）。エネルギー・気候変動領域は、ガッツがある方が多く、社会の潮流の先端で仕事をしている印象です。課題や技術のトレンドを捉え続ける姿勢はすごいなと思います。

就職活動中の人に メッセージをお願いします

熊倉 学生のうちに自分の極めたい分野を見つけると、社会に出た時に自分の強みや個性になります。私は大学時代に湿原を研究していたので、これから仕事の中で活かせるといいと考えています。

中国 学生時代には土木工学を学びましたが、土木を基盤に環境に関われる今の仕事が自分に合っていました。学生時代の研究と仕事では、必要な能力や見方も変わります。だから「これがやりたい」と決めてしまうのではなく、これまでの経験からあえて違う分野に飛び込むのも面白いと思います。環境・エネルギー分野は間口が広いので、新しいことに挑戦したい人におすすめです。

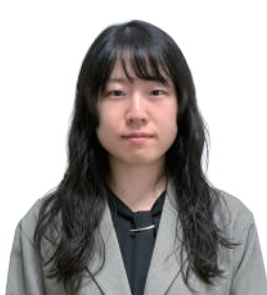
谷畑 同じコンサルタント業界でも、会社ごとに雰囲気は違います。ぜひインターンを通じて、どんな人がいるのか、どんな雰囲気の中で働いているのか肌で感じてください。環境・エネルギー分野は入社後に勉強することも多いので、わからないことを素直に質問できる人、新しい知識を吸収する意欲のある人に向いていると思います。挑戦を待っています。



2010年入社

中 園 雅之社会イノベーション事業本部
環境共生部 次世代環境創造室

学生時代は土木工学を専攻し、海底地盤の変形解析プログラムを研究。インフラ整備と環境配慮の両立を目指し、建設コンサルタントの環境部門へ入社。現在はさまざまな事業の環境アセスメント業務に従事している。



2025年入社

熊 倉 彩花大阪本社 社会イノベーション事業部
環境・エネルギー室

大学・大学院で森林科学や植物生態学を専攻。環境保全への貢献を目指し、建設コンサルタントの環境部門を選んだ。インターンシップで感じた雰囲気の良さが入社を決め手。現在は環境影響評価や河川の自然再生業務に携わっている。



2021年入社

永 友 佑社会イノベーション事業本部
GX推進部 気候・資源政策室

大学院では日本のエネルギーシステムの将来像について研究。研究室の先輩の紹介で建設コンサルタント業界を知った。入社後は再生可能エネルギーや廃棄物・資源循環に係る国の政策支援業務を担当している。



2019年入社

谷 畑 佑典社会イノベーション事業本部
GX推進部 地域脱炭素室

大学院でLCAやバイオマスを研究し、脱炭素事業を志し入社。国や自治体の再エネ及び脱炭素関連の計画策定に関わる。6～7年目は関連会社のパシフィックパワーへ出向し、自治体新電力の運営支援やGX事業の創出にも携わった。

	新入社員～	3年目～	10年目～	管理職	職位者
階層別研修	新入社員研修	思考力強化研修	リーダーシップ研修	管理職研修	職位者研修
技術力・専門性	分業別新入社員研修			マイスター制度	
		OJT ※On-the-Job Trainingの略称			
		技術士等受験指導			
		分業別研修(技術研修・現場見学・出向・技術勉強会など)			
コミュニケーション 部下・後輩育成			1 on 1		
			コーチ研修		
	コーチ制度				
国際性		英語力強化研修(学習支援・プレゼン力向上)			
			グローバル事業勉強会		
			海外プロジェクト研修		
公募型・選拔型		次世代リーダー育成(ビジネススクール)		経営人材育成	
自己研鑽サポート			TOEIC受験補助		
			実務・資格取得講座受講補助		
			各種自己研鑽費用補助		
			資格取得祝い金・更新補助		
			高度専門学習支援制度(博士、MBA、MOTなどの取得支援)		
			キャリアアップ休職制度		

建設環境領域

技術交流会

全国で展開する業務内容の紹介や最新の技術動向の共有などを目的とした技術交流会を開催しています。全国の技術者が集まり情報共有・意見交換を行うことで、全体での技術力の向上を図るとともに、一人ひとりが持続可能な社会の実現に向けて技術者に求められる技術や知見を学ぶ機会にもなっています。



エネルギー・気候変動領域

勉強会

本支社が一体となって、業務や出向経験を通じて得た知見を共有する勉強会を開催しています。分野横断で学び合う機会に加え、室やグループごとにも若手社員が発表する勉強会を実施しており、互いに刺激を受けながら視野と専門性を広げ、一人ひとりの成長につなげています。



東京

建設環境領域

環境アセスメントや自然再生などの業務に加えて、中央官庁や地方公共団体の政策立案・計画策定支援、民間企業のネイチャーポジティブ推進支援など、建設環境領域全般にわたる幅広い業務を展開しています。また、空港や新幹線などの国家プロジェクト、グリーンインフラなどの最先端の政策動向などにも関わることができます。

エネルギー・気候変動領域

中央官庁や全国の地方公共団体、民間企業を主な顧客とし、脱炭素政策の企画から実行に至るまでの一貫した支援を行っています。環境省やエネルギー事業会社であるパシフィックパワーへの出向機会を通じて、政策立案と事業現場の双方を経験し、実践力を高められる点が特長です。

北海道

建設環境領域

道路・河川などの環境アセスメントを基盤に、環境DNAやAIを活用した最先端の生物モニタリングに挑戦しています。大学や社内外の技術者と連携しながら、北海道の豊かな自然を守り、持続可能な社会づくりに貢献できる仕事に携われます。

エネルギー・気候変動領域

GX・脱炭素関連業務を担うエネルギーグループと共に、まちづくりを主体とする総合プロジェクトグループ、建築設計を主体とする建築グループの3つのグループがあります。各々のグループが和気あいあいと協力しながら、自治体を中心としたGX業務の計画策定・FS調査・事業化支援を活発に推進しています。

東北

建設環境領域

「東北の豊かな自然を次世代へ。」をスローガンに、道路・河川等の社会基盤整備に伴う環境影響評価や自然再生を担う、建設コンサルタントの環境技術者の集まりです。東北6県を舞台に、環境DNAなど先端技術を活用しながら開発と保全の両立に挑んでいます。

中部

建設環境領域

東海三県(愛知・岐阜・三重)を中心に、河川・ダム・道路・空港・廃棄物処理施設など幅広いインフラを対象に、環境に関わる課題解決に取り組んでいます。分野横断の連携が強みで、支社内で横の繋がりが強い特徴があります。名古屋駅直結の新しくきれいなオフィスで快適に働ける環境です。

大阪

建設環境領域

大阪本社および高松市の四国支社を拠点として、近畿・中国・四国圏を主体として業務を展開しています。他分野の技術部門と連携のうえ環境アセスメント、河川自然再生などの多様な業務に取り組み、若手からベテランまで活発に議論しながら、西日本の地域課題の解決に挑戦しています。

エネルギー・気候変動領域

2023年5月から地域脱炭素を専門とする技術者がメンバーに加わり、脱炭素関連業務を推進しています。東京オフィスや北海道支社と連携しつつ、デジタル・交通・まちづくり分野などとの協働を通じ、西日本の幅広いフィールドで新たな取り組みを進めています。

九州

建設環境領域

九州・沖縄および一部中四国地区を中心に、環境アセスメント、自然・生活環境分野の業務に取り組んでいます。海域分野では、ブルーカーボンや洋上風力などの先進的なテーマについて、全国展開で事業を推進しています。若手からベテランまで連携し、地域に根差した視点と全国規模の知見を融合させながら、持続可能な社会の実現に挑戦しています。